

低コストで効率的な施業の推進について

留萌北部森林管理署

【現状・課題・目的】

○当地域から生産される木材は、域内に大規模な木材加工施設が無いことから、その大半は上川方面や他の地域で消費されている。
○地域の民有林においては、事業地の集約化が進まず、木材の供給体制は小規模・分散的なものとなっている。また、原木の需給情報の共有が不足している。このため、民国連携した木材の安定供給に向けた仕組みづくりが必要。

【これまでの取組や成果】

○道有林と国有林の連携した取組を進めるために、振興局とともに民有林と国有林の伐採予定箇所や更新予定箇所を一緒にした民国一体化図面を作成した。
○「工程管理システム」について、町担当者を対象に説明会を行い、作業工程、生産コスト、機械ごとの作業工程が算出可能となること等を説明した。
○民有林及び国有林の担当者がお互いの作業システムなどの現状を知ること、今後の木材生産の効率化に向けて、どのように取り組んでいくか意見交換会を実施した。

【平成30年度の取組結果・成果】

①民有林と連携した施業の推進

初山別森林共同施業団地において、次年度に国有林（分収造林箇所を含む。）、道有林が連携して施業を進めるため、入札方法や販売時期などを検討するとともに現地検討会を開催した。

検討会では関係機関が参加し、担当者から伐採予定箇所の概況説明後、路網の共同利用、保安林の手続きや収穫調査、分収造林地の伐採等について幅広く意見交換した。

また、ドローンによる上空から伐採予定箇所の撮影等も行い、搬出予定線や作業土場の位置等についても確認した。

今年度、関係者間で路網や土場を共有することにより、作業コストの削減が可能になることが確認されたことで、次年度、共同施業、協調出荷を目指す意識醸成につながった。



路網の共同利用について検討



ドローンによる現地確認

②地域林業の発展に向けた取組

今年度の地域の林業技術の向上を目的とした意見交換会は、带状更新伐（誘導伐）箇所で開催した。

更新伐の目的、事業概要、伐採区域の設定方法等について説明し、請負実施者の事業体も参加して保残木の取扱い、今後の更新方法等について意見交換会をした。参加者からは、コンテナ苗の植栽の有無、搬出した材の用途や需要先などについて積極的な質問があり、関係者のスキルアップにつながった。

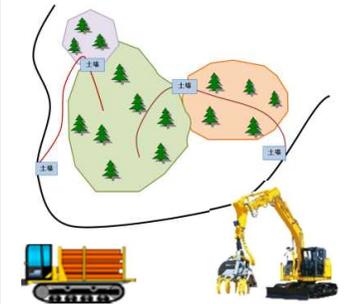


带状更新伐箇所での意見交換会

【今後の取組みで目指すところ】

民有林ではこれまで育ててきた森林からどのように収益を上げるか検討をはじめている。

国有林としても森林共同施業団地での共同施業・協調出荷などの低コスト林業に向けた取組事例や工程管理、ドローン、木材販売など最新の技術情報を積極的に提供していく。



【今後の目標】

○地域林業の発展に向け振興局と連携しつつ、地域林業関係者の林業技術の向上を図るための現地検討会などを開催するほか、管内民有林との共同施業、協調出荷に取り組んでいく。